

【開会の挨拶】

高 橋 志 朗

東北学院大学経営研究所所長・東北学院大学経営学部長

鈴木

お待たせ致しました。ただ今より、東北学院大学経営学部経営研究所主催の起業家セミナーを開催いたします。今年のタイトルは、『震災復興と経営者』です。

今回は、積水ハウス株式会社、代表取締役兼COOの阿部社長に基調講演をお願いしました。最初に、阿部社長の略歴をご紹介させていただきます。昭和26年宮城県登米市出身で、昭和50年、東北学院大学文学部史学科を卒業されました。そして積水ハウス株式会社に入社され、現在代表取締役兼COOに就任されております。ここで、あらかじめお知らせいただいた基調講演の簡単な内容をご披露させていただきます。

阿部社長は、社長就任後にリーマン・ショックが起こり、重要な局面で会社経営のかじ取りを行いました。また東日本大震災に関しては、震災発生日に仙台で被災されました。そして、自ら復興本部長として、震災対応の陣頭指揮に当たられました。本日は、そのような経営と震災の経験を通して、積水ハウスが、いかに活動してきたのか、またこれからのわが国の課題に対し、住まいに携わる企業として何ができるのか等を、ご講演いただきます。

ここで経営学部長がごあいさつさせていただきます。

写真1：シンポジウムの全体の様子



高橋

ご紹介いただきました、学部長の高橋です。きょうは阿部社長様はじめ、お三方の経営者の皆さま、遠方より、またお忙しい中、おいでいただきまして、誠にありがとうございます。今回のテーマは、今、鈴木教授のほうからご案内がございましたように、震災復興と経営者です。ご存じのとおり、震災以降、4年3か月以上経過しましたが、全体として見た場合に、まだら模様の復興状況にあり、復興はまだまだという側面があると思います。今後とも、産官学の協力の中で、この復興というものを考えていかななくてはならないでしょう。本日は特に経営者の視点、あるいは企業体の視点から震災復興に、どのように立ち向かっていくのか、あるいは今までどうしてきたのかというような点から、いろいろとお話をいただき、またそれに基づいて、シンポジウムをやっていきたいと考えておるわけでございます。

登壇いただきますお三人の経営者のかたがたには、特にお礼を申し上げたいのですが、とりわけ積水ハウスの阿部社長様には、お忙しい中、OBというよしみがあったのかもしれませんが、おいでいただきましてありがとうございます。学長から、特に書状を預かってまいりましたので、ご披露させていただきたいと思います。

『積水ハウス株式会社、代表取締役社長兼COO、阿部俊則殿。謝辞。本日の経営学部主催シンポジウムにご来臨賜りましたご講演者、阿部俊則様に主催校を代表して、一言お礼の言葉を申し上げたく存じます。このたび阿部様におかれましては、長らく積水ハウス株式会社社長に就任されていらっしゃる伺いました。心よりお祝い申し上げます。東北学院大学ご出身として、日本の建設業界を代表する、積水ハウスのトップを占められたということ、誠に誇らしく存じます。加えて、本学経営学部経営研究所で企画致しました、起業家シンポジウムの基調講演をご依頼申し上げたところ、超多忙のスケジュールにも顧みず、ご快諾、ご来学くださいました。厚く感謝申し上げます。阿部様の卒業校たる東北学院への思いやりの深さを感じ、感激致しております。シンポジウムでは企業トップとしての高度なご見解と深い見識の一端をお聞かせいただくとともに、阿部様の後輩に当たる学生たちにも、先輩としての力強いお励ましを送っていただけたら、誠に幸いです。本来ならば、私も出席し拝聴致すべきところ、あいにく恒例の北海学園大学とのスポーツ定期戦開催のため、副学長ともども、札幌出張の日程と重なってしまいました。誠に恐縮ではありますが、文書による謝辞とさせていただきますご無礼をお許しください。阿部様には、これからも貴社のために、また日本経済界のためにご活躍くださいますよう、心よりお祈り申し上げます。そして、母校東北学院大学への変わらぬご支援ご指導もお願い申し上げます。最後になりますが、阿部様の今後のご発展、ご健康を祈念致しまして、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。2015年6月、東北学院大学長、松本宣郎』。

以上、私のあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

鈴木

それでは早速ですが、積水ハウス株式会社、代表取締役社長、阿部様、よろしくお祈り致します。